

**河内長野市第5次総合計画策定に向けた
市民ワークショップ
提言書**

河内長野市を“もっと”元気に！
河内長野の未来予想図

平成 26 年4月

提言書目次

提言書	1
提言詳細	
1. 環境・景観	2
2. 福祉・健康・スポーツ	5
3. 教育・歴史	8
4. 商工・農林・観光	10
5. 安心・安全・都市基盤	13
市民ワークショップ参加者名簿	16

資料編

1. 市民ワークショップの概要	1
2. スタートアップセミナーについて	3
3. 第1回～第5回のワークショップについて	8
4. 各班検討結果のまとめ	14

提 言 書

河内長野市長

平成26年4月23日

第5次総合計画市民ワークショップ参加者一同

私たちは、河内長野市における第5次総合計画の策定にあたり、市民参加による計画づくりを目指して開催された市民ワークショップに参加し、検討を重ねてきました。本ワークショップでは、「河内長野市を“もっと”元気に！ 河内長野の未来予想図」のテーマのもと、個別のグループテーマを定め、河内長野市の「魅力＝強み」と「課題＝弱み」の抽出を行いました。そして、目指すべき将来像に向けた分野ごとのプロジェクトについて検討を行い、このたび、提言としてとりまとめを行いました。

全てのグループで共通していたのは、河内長野市の魅力である恵まれた自然環境や多様な歴史・文化を活かし、それぞれの分野における活性化方策について検討がなされたことです。また、大きな課題として高齢化問題があげられ、元気な高齢者の活力をまちづくりに還元していくべきであると意見が多くみられました。これらは、河内長野市のこれからのまちづくりを進める上での根幹をなす考え方であると捉え、市民、地域や事業者、行政が共有すべき方向性であると考えられます。詳しくは、以下の通りグループごとにプロジェクトをまとめておりますが、様々な取組を市民・地域・事業者・行政等が互いに協働で進めながら、より良い河内長野をみんなで目指していくことが重要と考えています。

■各グループのテーマとプロジェクト名

テーマ	プロジェクト
1. 環境・景観	“ほんまもん”の環境・景観形成プロジェクト “ほんまもん”の環境・景観協働プロジェクト “ほんまもん”の環境・景観PRプロジェクト
2. 福祉・健康・スポーツ	集まって助け合いプロジェクト 集まろう居場所づくりプロジェクト 定住促進プロジェクト
3. 教育・歴史	育つ場づくりプロジェクト 情報の見える化プロジェクト
4. 商工・農林・観光	土地利用プロジェクト 駅前活性化プロジェクト 特産品開発・販売プロジェクト
5. 安心・安全・都市基盤	都市計画やり直しプロジェクト 歩いて楽しく暮らせるまちプロジェクト 安心・安全に暮らせるまちプロジェクト

第5次総合計画の策定にあたっては、私たちの提言を受け止めていただき、計画に活かしていただきますようよろしくお願いします。

1 環境・景観

コンセプト

みんなで作る ほんまもんの環境・景観のまち

“ほんまもん”の環境・景観をつくることを目指し、3つのプロジェクトを考えました。
※“ほんまもん”の環境・景観をつくることは、住む人にとっては住むに値し、訪れる人には心地よさや喜びを与える環境・景観づくりを指す。

(1) “ほんまもん”の環境・景観形成プロジェクト

【プロジェクトの目的】

河内長野市の魅力である環境・景観を活かすため、みんなで豊かな自然環境を保全・活用するとともに、五感に訴えかける景観形成など、“ほんまもん”の環境・景観をつくる。

【プロジェクトに関する現状】

強み	弱み
<ul style="list-style-type: none">・自然や文化財など財産がたくさんある・水や空気がきれい	<ul style="list-style-type: none">・住宅街近くの山々が昔に比べて荒れている

【取り組みの提案】

市民の取組	<ul style="list-style-type: none">・自然や環境を観察し、見守るなど環境への意識を高める・自然保護の活動に参加する・川の清掃やほたるの放流、ほたるについてのガイドなど、“ほたるのまち”にするためのボランティア活動に参加する・市に対して環境・景観形成に関する提言を行うなど、主体的に参加する
地域・事業者等の取組	<ul style="list-style-type: none">・地域の団体として、環境・景観に関わる取組やイベントを開催する・地区別の環境・まちづくりについての計画に基づく取組を進める・森林組合や農業協同組合等、農林業に関わる主体が協力し合い、人工林を自然林に変えていくための取組や遊休農地の活用などに取り組む
行政の取組	<ul style="list-style-type: none">・人工林（スギ、ヒノキ）の山を自然林（広葉樹の森）にして、水源の森をつくり、“ほんまもん”の水を販売する・植樹や間伐材の利用を促進する・地区別の環境・まちづくりについて計画を立てる・環境・景観を地域資源としてまちづくりに活かす・まちづくりに活かすため、環境・景観の地域資源をアーカイブ化（博物館や情報センター等）する・自然にふれたり、学んだりできる場や体制を確保する・川の清掃やほたるの放流、ボランティアの育成など、“ほたるのまち”にするための活動を進める

【提言のポイント】

- ・環境・景観形成に対する全市的な機運を高める
- ・良好な環境・景観を「守る」視点と、「活かす」視点を持つ

(2) “ほんまもん”の環境・景観協働プロジェクト

【プロジェクトの目的】

市民が自分たちで自分たちの自然や景観を守り、より美しい“ほんまもん”のまちをつくるために、環境に関するボランティアなど、マンパワーとして活用できる人材育成を行う。

【プロジェクトの現状】

強み	弱み
<ul style="list-style-type: none"> ・自然や文化財など財産がたくさんある ・水や空気がきれい ・退職後の人など、余暇時間のある人が多い ・自治会単位での取組は活発にされている 	<ul style="list-style-type: none"> ・ゴミやタバコのポイ捨てが多い ・市民のボランティア精神が足りない ・環境に対する住民意識が低い ・リーダーとなる人材が少ない ・地域個々の活動が市全体のまちづくりにつながっていない

【取り組みの提案】

市民の取組	<ul style="list-style-type: none"> ・河川の美化運動、自発的な道路の清掃など、自分自身も動く ・得意分野のボランティアに積極的に参加する ・家の前に花を置くなど、美しい景観づくりのためにできることをする
地域・事業者等の取組	<ul style="list-style-type: none"> ・河川の美化運動、道路の清掃等、自治会単位での取組を進める ・ごみ拾い隊（移動型の子ども見守り隊を通して各自治会の横の連携を図る）を結成する ・次代を担う子どもや若者が参加できる取組を進める ・ごみの減量やまちに樹を植える活動など、企業も参加することで、イメージアップにより“PRプロジェクト”につなげる
行政の取組	<ul style="list-style-type: none"> ・市の広報やホームページでボランティアの紹介・宣伝をする ・自治会ごとにボランティア委員を募り、指導する ・里山を整備するときなど公募でボランティアを募る ・荒れている住環境に地域人材（小中学生等の若い世代、高齢者等）を活用し、維持・管理への参加を促す ・市民の提言を受け付け、対応する体制を確保する ・ごみ拾い隊の結成・活動を促進する ・ボランティア活動の拠点の整備や周知を進める

【提言のポイント】

- ・各主体が環境・景観形成を「自分ごと」として捉えて、協働により推進する
- ・環境・景観をテーマにした協働をきっかけとして、まちづくり全般への参画につなげる

(3) “ほんまもん”の環境・景観PRプロジェクト

【プロジェクトの目的】

みんなで作った“ほんまもん”の環境・景観を河内長野の人だけでなく、市外の人にも知ってもらい、その価値をより高めるため、積極的にPRする。

【プロジェクトに関する現状】

強み	弱み
<ul style="list-style-type: none">・自然や文化財など財産がたくさんある・水や空気がきれい・岩湧山、金剛山、ダイヤモンドトレールなど、山々のアピールが良い・旧高野街道など、素晴らしい歴史的景観がある	<ul style="list-style-type: none">・パンフレット等による説明不足

【取り組みの提案】

市民の役割	<ul style="list-style-type: none">・自分にできる範囲で、河内長野市の環境・景観をPRする
地域・事業者等の取組	<ul style="list-style-type: none">・地域の環境・景観の魅力を発掘・創出して、PRにつなげる・清掃活動やごみの減量など、まちのイメージアップに取り組む・「ふるさと再発見写真展」など、市民のおすすめの環境・景観を発信する場をつくる・まちの環境・景観をPRするためのガイドボランティア活動に取り組む・だんじり祭など、全市的に盛り上がるイベント・行事を活用して環境・景観づくりの意識向上を図る
行政の役割	<ul style="list-style-type: none">・ボランティア等を活用するなど、歴史文化を活かしながら環境・景観をPRする・環境活動に取り組んでいる地域・事業所をPRする・きれいなまち、美しいまちのイメージ戦略（“ほたるのまち”など）と広報活動を行う・“ほんまもん”のまちづくりの市長宣言をつくる

【提言のポイント】

- ・市民、地域・事業者・行政、みんなが河内長野市の魅力を発信する意識を持つ
- ・優良事例を共有することで、市全体として環境・景観形成の取組のレベルアップを図る

2 健康・福祉・スポーツ

コンセプト

～あなたもわたしも集まろう～

“あなたもわたしも集まろう”を基本として、積極的に自分もみんなも集まっていこうという想いのもと3つのプロジェクトを考えました。

(1) 集まって助け合いプロジェクト

【プロジェクトの目的】

だれもが健康で住みやすい地域づくりのため、あいさつを基本として地域内の顔つなぎ、インフォーマルな情報の共有など町会、自治会の地域組織が活性化し、市民相互の助け合いの仕組みをつくる。

【プロジェクトに関する現状】

強み	弱み
<ul style="list-style-type: none">・登校時に交通安全指導を実施している・地域間の交流・連携に市が積極的に取り組むようになった（地域まちづくり協議会）・高齢化率は高いが文化レベル、健康レベル、福祉レベルが高い	<ul style="list-style-type: none">・高齢化が進み、一人暮らしのお年寄りが増えている・横のネットワークづくりへのサポートが不十分・組織が大きいところに福祉支援が集中する・ニート、生活保護者数が増加している

【取り組みの提案】

市民の取組	<ul style="list-style-type: none">・地域であいさつできる関係、助け合える関係をつくる・地域の集まりに積極的に参加する・隣近所に住んでいる人について知る・各自治会の中でのクラブ活動を充実する
地域・事業者等の取組	<ul style="list-style-type: none">・自治会、老人会、民生委員会、福祉協議会、子ども会など一本化して地域の合同会議を行う・一人暮らしの高齢者など支援を必要とする人を地域で支えるため、情報共有や助け合いの仕組みをつくる・助け合いの活動が成功している地域と情報交換、交流し、参考にする・災害時要援護者リストを地域や事業所で共有する・医療介護現場の同職種で集まって情報共有、意見交換を行う・小学校区で連合自治会が集まって意見交換を行う
行政の取組	<ul style="list-style-type: none">・自治会、老人会、民生委員、社会福祉協議会以外による支援、見守りを促進する（シルバー人材センターの活用等）・中学生や主婦など地域情報を知る人のネットワーク構築を促進する・自治会の集まり、話し合いの支援（例、ファシリテーター派遣等）

【提言のポイント】

- ・集まることができる関係づくりからスタートする
- ・集まることでのメリット（それぞれの得意分野を活かす）を活用する

(2) 集まろう居場所づくりプロジェクト

【プロジェクトの目的】

地域の交流を活発にし、助け合いの好循環を生み出すため、子ども達から社会人、高齢者、障がい者など、だれもが集まりやすい居場所（場所、時間帯、自治会単位など）をつくる。

【プロジェクトに関する現状】

強み	弱み
<ul style="list-style-type: none"> ・市民マラソンやスポーツラリーが開催されている ・くろまる塾がある ・地域間の交流・連携に市が積極的に取り組むようになった（地域まちづくり協議会） 	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢化が進行している ・地域の中で個人の孤立化がみられる ・若者と高齢者とのスポーツ交流が少ない ・公共施設でスポーツできる場が不足している ・高齢者にも楽しめるスポーツなどが少ない ・コミュニケーションの場が少ない

【取り組みの提案】

市民の取組	<ul style="list-style-type: none"> ・健康・スポーツイベント（例：滝川ダム周辺リレーマラソン・金剛山でのポイントラリーや市内各ルートのウォーキング）などに参加する ・公民館での健康に関するイベント等に参加する ・老人会などを通じて文化、スポーツ活動に参加する
地域・事業者等の取組	<ul style="list-style-type: none"> ・自治会単位でお茶のみなど気軽に参加できる親睦会の開催、健康・スポーツイベントや活動に参加する ・各自治会の班単位で年1回親睦会を実施する ・地域全体で子どもを育て、教育する意識を持ち、世代間交流を行う ・健康・スポーツイベントへの参加・協賛など企業も関わる ・集まる場所として企業が店舗や敷地を提供する ・新しいシンボルになる場所を駅前につくる（例、平成の河内長野宿）
行政の取組	<ul style="list-style-type: none"> ・集まる場所として学校の余裕教室、グラウンド、公共施設等を開放し、集まりやすくする ・スポーツや健康・医療などのアドバイザーとして協力する ・集まるための手段として循環バス等を充実する ・健康づくり施設のない町内会への施設の充実を促進する ・自治会に参加しやすい支援、援助（例：お茶、天野酒等）

【提言のポイント】

- ・身近なところで集まることができる「場所」と「機会」を創出する
- ・集まったところで、助け合いにつながる関係を深める

(3) 定住促進プロジェクト

【プロジェクトの目的】

活気あるまちづくりから転出の抑制を行い、安全なまちづくりや、高齢者、障がい者、ニート、だれでも働きやすい環境の確保、特徴あるまちづくりを行い、定住人口の増加を図る。

【プロジェクトに関する現状】

強み	弱み
<ul style="list-style-type: none">・ ゴミゴミしておらず、環境が良く、空気がきれい健康に良い・ 高齢者福祉施設が充実しており、安心して老後を送ることができる・ 働いている子育て世代への市からの援助が多くなってきている	<ul style="list-style-type: none">・ 人口が減少している・ 少子化で将来の不安要素が多い

【取り組みの提案】

市民の取組	<ul style="list-style-type: none">・ 他市から人を呼び込むための日本で有名になるまちづくり（自然活用の公園や花の栽培など）・ 河内長野市に住み続ける、将来的に帰ってくる
地域・事業者等の取組	<ul style="list-style-type: none">・ 夜回り、青パトの活用による安全な地域づくりを行う・ 企業は地元雇用枠を確保する・ 雇用確保のための事業を行う (例：①やぎの観光牧場 ②都市型ラインガルデン ③庭園鉄道の誘致 ④休耕田の活用、菊づくり等)
行政の取組	<ul style="list-style-type: none">・ 子どもの安全を確保するため登校時の通学路の車両通行止めを行う・ 里山再生専門家の養成により、自然環境を守る取組を促進する・ 子ども関係への福祉を充実し、子育てしやすいまちのPRを行う・ 市民農園の提供による定住促進を行う（30年借地権など）・ 高齢化地域（限界集落等）へのサポートを行う

【提言のポイント】

- ・ 地域を維持していくために人口の確保を行う
- ・ 地域資源を活かした取組により、市外から人を呼び込む

3 教育・歴史

コンセプト

育てる力のあるまち

育てる力のあるまちを目指し、2つのプロジェクトを考えました。

(1) 育つ場づくりプロジェクト

【プロジェクトの目的】

郷土愛や生涯通じて学ぶ喜びをもった人、地域の課題に気づいて対応できる人が育つため、個々の持っている技能や特技など地域の人的資源を活用できる場所や仕組みをつくる。

【プロジェクトに関する現状】

強み	弱み
<ul style="list-style-type: none">・生涯学習の場が提供されている・くろまる塾がある・育つための豊かな自然・歴史資産がある・教育都市を目指し、市民のレベルアップを図っている	<ul style="list-style-type: none">・リーダーシップを持った人の活用ができていない・多様な市民の力が発揮される仕組みや場が少ない・官民学協働の取り組み体制が不十分・豊かな自然・歴史を学び、活用する教育が不足している

【取り組みの提案】

市民の取組	・市民が経験を活かして、できることから、育つ場づくりに参画する
地域・事業者等の取組	・企画をつくり出せる人、リーダーなど地域の中心となる人をつくる ・ワークショップや勉強会を行うなど小さな場づくりから始める ・活動が継続できるよう集う場や体制（商店街の空き店舗やサロン等）を提供する
行政の取組	・市民主体の地域における教育の仕組みづくりを後押しする (例：①ワークショップによる市民との検討の場を市の文化にしていく ②学校や公共施設等、活動する場所を提供する ③子どもが自然や地元学を学べる場所の確保する ④子どもたちが自然の中で育つことができるよう、自然を守り、活かすため長期的な視点での森づくりを促進する等)

【提言のポイント】

- ・だれもが主体的に学べる場所や機会を創出する
- ・河内長野の自然や歴史・文化などを活かした教育により郷土愛を醸成する
- ・「育つ場づくりプロジェクト」をすすめ、将来的に市民のための市民による市民大学の設立を目指す

(2) 情報の見える化プロジェクト

【プロジェクトの目的】

市民の教育活動への参画意識を高めるため、地域に点在するコミュニティ、人、物を発掘し、だれも見える情報とし、広報や回覧板だけでは得られない地域情報を発信、共有する。

【プロジェクトに関する現状】

強み	弱み
<ul style="list-style-type: none">・住民同士の結びつきが強い地域が残っている・ボランティアやくろまる塾等、市民参加しやすい・外から流入した人と旧来からの人が混在し、様々な人材がいる	<ul style="list-style-type: none">・市民の一体感がない、つながりが薄い・他市に対するアピールが不足している・行政と市民、または市民同士の情報連携が少ない

【取り組みの提案】

市民の取組	・情報が見える化するため、「私」のできることを登録するなど、積極的に情報を発信・活用する
地域・事業者等の取組	・情報が見える化するため、「団体」「事業者」のできることを登録するなど、活動拠点や小売店等で積極的に情報を発信・活用する
行政の取組	・市民との協働により、情報バンク、ネットワークをつくり、運営する (例：①現場や市民の意見を吸い上げる ②市の広報やホームページ以外に、地元情報ホームページと紙媒体を作成する ③河内長野の歴史を市外へ発信する組織の設立を促進する)

【提言のポイント】

- ・あらゆる手段を通じた情報発信・情報共有を図る
- ・共有した情報を活用することができる体制をつくる

4 商工・農林・観光の分野について

コンセプト

ゆっくり、のんびりできる観光のまち

ゆっくり、のんびりできる観光のまちを目指し、3つのプロジェクトを考えました。

(1) 土地利用プロジェクト

【プロジェクトの目的】

河内長野市の7割を占める山間地などを活かし、農業と連携した観光の魅力づくりを図るため、休閒農地を有効活用する。

【プロジェクトに関する現状】

強み	弱み
<ul style="list-style-type: none">・自然の資源が豊か・余剰の面積が広い	<ul style="list-style-type: none">・休耕地が増えるとともに、田畑が活用も低下している・高齢者化のため農林業の継続が難しい

【取り組みの提案】

市民の取組	<ul style="list-style-type: none">・綿やそばなど手間のかからない、かつ、栽培が観光に結びつく農業に取り組む・農業者と一般市民が協力した農地の観光活用
地域・事業者等の取組	<ul style="list-style-type: none">・市民等が参加するNPOや地元企業の農地活用への参加・地域は、有効な土地利用のため、プロジェクトへの積極的参加と農地等の提供・休耕田等での花づくりなど、地区観光に即応した空閑地の提供
行政の取組	<ul style="list-style-type: none">・土地借用などにおける中間借り上げへの参加・休閒農地等へのグランドゴルフ場利用や自然エネルギー利用促進設備設置等、非農業利用に対する調整・農の魅力を観光や商業とつなぎ、特産品の販売につなげるなど、観光地区の拡大を図る

【提言のポイント】

- ・休閒農地を地域で有効活用していく意識を持つ
- ・既存の取組にとらわれずに土地の活用方法を考える

(2) 駅前活性化プロジェクト

【プロジェクトの目的】

にぎわいと魅力ある中心市街地の創造のため、市商業の中に観光商業を強く取り込み、来街者の支出による商業活性化と駅前地区の活性化を図る。

【プロジェクトに関する現状】

強み	弱み
<ul style="list-style-type: none">・南海と近鉄の合流点である（古くは高野街道の結節点である）・金剛山等への観光客の利用が多い	<ul style="list-style-type: none">・魅力ある専門店や若者が楽しめる場所が少ないなど、商業施設の魅力が不十分・駅前商店街が弱体化している・観光客を引き込めるだけの魅力がない

【取り組みの提案】

市民の取組	<ul style="list-style-type: none">・駅前活性化に向けた資金集めのための市民ファンド作りや、まちづくり活動への提案など、市民主体のプロジェクトへの参加を行う。
地域・事業者等の取組	<ul style="list-style-type: none">・街のイメージ形成のため、地域・事業者が参加・連携し、専門家の意見も聞きながら、まちづくり活動を進める・河内長野の観光、市駅前の顔として、観光の街にふさわしい観光拠点の設置に努める
行政の取組	<ul style="list-style-type: none">・駅前施設の設置等に対して、市街地活性化法などの制度導入に努める・市の中心市街地活性化を強力に進める（計画を策定）・駅前の開発に関する地元への理解促進に努める・市が主導して、観光拠点（観光センター等）をつくる

【提言のポイント】

- ・市民、地域・事業者等が関わりながら活性化方策を検討する

(3) 特産品開発・販売プロジェクト

【プロジェクトの目的】

観光地における観光客への楽しみを提供するとともに、市の商業活動の活性化を図るため、行政と市民が参加した特産品開発と販売施設の開発に関わり、地域への参加意欲を高め、市民と観光客とのつながりをつくる。

【プロジェクトに関する現状】

強み	弱み
<ul style="list-style-type: none">・観光資源が豊かで観光客が多い・南海と近鉄の合流点である・自然が豊富で府のリゾートゾーンである・農産物、果物が生産されている・地場産業が残っている・観光ボランティア活動など、市民の活動に広がりが出ている	<ul style="list-style-type: none">・名産物がほとんどない・名産物を販売しているところがほとんどない・観光センターと言える施設がない

【取り組みの提案】

市民の取組	<ul style="list-style-type: none">・市民目線で特産品コンテストなどへの提案や出品を行う・女性や熟年のパワーによる特産品を手作りする組織（クラブなど）づくりを行う
地域・事業者等の取組	<ul style="list-style-type: none">・商工会等が中心となって、「奥河内」等の共通のネーミングを活用するなど、特産品の開発・販売を推し進める・商工会等が主体となって市民まつりなどで市民参加の特産品コンテストを行う
行政の取組	<ul style="list-style-type: none">・特産品の開発について、ネーミング等のアイデアを募るなど、啓発キャンペーンを行う・特産品の開発又は販売にふさわしい施設や販売機会を提供するとともに、特産品指定などを行う・産官学の協働で特産品の開発の検討を行う

【提言のポイント】

- ・地域資源を活かし、市民、地域・事業者等の声を踏まえた特産品の開発を行う
- ・観光客等来訪者が求めるものという視点で考える

5 安心・安全・都市基盤の分野について

コンセプト

子ども・若者・高齢者が安心して暮らせるまち

子ども・若者・高齢者が安心して暮らせるまちを目指し、3つのプロジェクトを考えました。

(1) 都市計画やり直しプロジェクト

【プロジェクトの目的】

人口減少、少子高齢化が急速に進む中で、だれもが住み良い、住みたい、住み続けたいまちをつくるため、都市計画をもう一度根本から見直し、やり直す。

【プロジェクトに関する現状】

強み	弱み
<ul style="list-style-type: none">・住宅地内は道路が整備されている・居住地中心で落ち着きがある・緑が多い・歴史がある・市域が広い	<ul style="list-style-type: none">・駅前が寂しい・基本となる都市計画ができていない・広域交通道路網が不足している・市内に雇用の場がない・大規模な都市計画のやり直しに向けた資金不足

【取り組みの提案】

市民の取組	<ul style="list-style-type: none">・駅前再開発や都市計画に関する意見の提案を行う・森林、歴史資産の保全と活用に協力する
地域・事業者等の取組	<ul style="list-style-type: none">・ルール無視のミニ開発などをしない、させない・地域や事業者は駅前再開発に協力する・国の資金（補助金）を使う事ができる提案をする・民間活力として都市計画に参加する
行政の取組	<ul style="list-style-type: none">・現行の都市計画の大胆な見直しを検討する・条例により無秩序なミニ開発を防ぐ・スクラップアンドビルドで思い切った駅前再開発を行う・森林、歴史資産の保全と活用により自然と地域文化を活かしたまちづくりを行う・各集落で生活を完結できるよう、生活利便施設を集落内で確保するための条件整備を行う・エネルギー施設や廃棄物処理施設などの受け入れによる国庫補助確保、補助金事業の申請、遊休農地の活用、民間資金等、あらゆる手段を活用した財源確保の検討・PDCAの徹底（特にチェックの強化）を図る

【提言のポイント】

- ・すべてのまちづくりの根幹として、都市計画を考える
- ・財源確保の裏付けを持つ

(2) 歩いて楽しく暮らせるまちプロジェクト

【プロジェクトの目的】

身近な場所でだれもが（高齢者も子どもも）安心して楽しく暮らすことができるようにするため、コンパクトなまちづくりを行う。

【プロジェクトに関する現状】

強み	弱み
<ul style="list-style-type: none"> ・居住地中心で落ち着きがある ・住宅地内は道路が整備されている ・新住宅地の街並みがまとまっている ・近鉄、南海鉄道の結節点である 	<ul style="list-style-type: none"> ・公共交通の運賃が高い ・市全体では、道路、歩道が整備されていないところがある ・生活道路の交通量が多く、危険 ・公共交通手段が十分でない、接続が悪い ・商店街がさびれている ・個人商店が激減している ・買い物難民が増加している

【取り組みの提案】

市民の取組	<ul style="list-style-type: none"> ・歩いて暮らせるまちのデザインに参加する（例：サイン計画等） ・住宅団地の自治会への積極的な加入と活動への参加 ・高齢者は駅近くに住み替える（コンパクトシティへの協力） ・公共交通機関を利用する ・休憩場所を市民によるアドプトで管理する ・買物ボランティアに参加する
地域・事業者等の取組	<ul style="list-style-type: none"> ・地域内のミニスーパーや移動販売車を維持するためにまちの全員が利用するようにする。運営に高齢者が参加する ・介護タクシーで買物支援を行う ・事業者が買い物難民問題の解消のためのサービスを検討する（買物ツアーなど） ・鉄道、バスなど、待ち時間なしで乗り換えできるようにする
行政の取組	<ul style="list-style-type: none"> ・住宅地内の身近な場所へのミニスーパーの設置に向けた条件整備 ・居酒屋、フロ屋街などの通りをつくる、住居エリアと仕事エリアの分割など、都市計画、まちづくりを見直す ・安心して歩ける歩道の整備や駅を中心とした歩行者環境の整備を行う ・モックルバスの路線（買物場所を巡る）などバス交通の充実を図る ・天野街道、高野街道を活用した歩いて巡れる場所をつくる ・買い物難民問題の解消のための検討と事業者との連携を図る ・だれでもわかりやすいサインの設置（英語表記等）

【提言のポイント】

- ・高齢者や障がい者、子ども、外国人などだれもが暮らしやすいまちづくりを基本とする
- ・買い物難民対策のため、車中心の生活、まちづくりからの転換を図る

(3) 安心・安全に暮らせるまちプロジェクト

【プロジェクトの目的】

子どもや一人暮らし高齢者など、だれもが安心してともに暮らせる地域づくりのため、地域ぐるみで防犯・防災体制を整えるとともに見守り活動の活性化を図る。

【プロジェクトに関する現状】

強み	弱み
<ul style="list-style-type: none"> ・災害が少ない ・災害時などの協力体制がある（地域力が強く、キーパーソンがいる） ・子ども見守り隊の活動が活発に行われている 	<ul style="list-style-type: none"> ・災害時の避難場所がわからない ・高齢化と人口減で災害時にお互い助け合うことができるか不安 ・山間部では防災無線が届かない地域がある ・空き巣被害が増加している ・急激な高齢化、空き住宅が増加している

【取り組みの提案】

市民の取組	<ul style="list-style-type: none"> ・声掛けできる、あいさつできる隣人との関係性を構築する ・市民にとって必要な交通危険箇所などの交通安全マップ、ハザードマップ等の作成に参加する ・元気な高齢者は見守り隊に参加する ・道路利用の世代別時間割（高齢者が、通勤時間等の混雑時ではなく、子どもの下校時間に合わせて散歩するなど）に協力する ・自治会に加入しない人がいないよう、自治会の大切さを伝え、みんなでまちづくりを考え、協力する意識を持つ
地域・事業者等の取組	<ul style="list-style-type: none"> ・災害時の危険箇所を地域で共有する ・地域まちづくり協議会で安心・安全のまちづくりに向けた取組を行う ・子どもの目線で安全なまちづくりを行う ・子どもの下校時間に合わせて地域行事を行うなど、普段からの地域による見守りを行う
行政の取組	<ul style="list-style-type: none"> ・住民参加による交通安全マップ、ハザードマップづくりを行う ・全地域での自主防災組織結成の促進を図る ・安心・安全に関する施策では、市民参加を促進する ・子どもと高齢者の交流イベントとしてウォーキング等を開催する ・元気な高齢者の“人材バンク”の設立など高齢者の活力を活用する仕組みをつくる ・転入手続き時に自治会加入のPRを行う

【提言のポイント】

- ・防犯・防災、生活支援など、あらゆる面での安心・安全に暮らせるまちづくりをする
- ・安心・安全なまちづくりのために元気な高齢者の力を活用する
- ・自治会を基本とした地域づくりを行う

市民ワークショップ参加者名簿

グループ	氏名	グループ	氏名
1班 環境・景観部会	生地 孝至 新宅 雅文 中村 廣美 東尾 肇 増田 勝紀 南野 茂雄 矢野 亮子 渡邊 繁夫	4班 商工・農林・観光 部会	石津 剛 大田 貞 片倉アヤコ 神橋 壽 古畑 稔 長尾 正 永田 英夫 三浦佐江子 山元 清隆 山本 信之
2班 福祉・健康・ スポーツ部会	石倉 保彦 石原 武 黒川 陸 竹下 貴子 中尾 勝彦 長野 妙子 中野 正明 林 真理子 福田 弘 宮井 一行 横田 昭二	5班 安心・安全・ 都市基盤部会	今井 利子 内山クニ子 幸山 善信 笹井 元三 渋谷 修 白井 春夫 板東可奈子 古田 幸雄 穂波 信雄
3班 教育・歴史部会	石黒 信博 青海 千秋 小栄住幸徳 櫻井 俊明 曾和 一美 畑 勝美 船本 清司 真期 淳一 松下 朝子 三浦 正彦 水谷 邦子	(敬称略)	